

道徳学習資料 平成28年3月編

道徳科本格実施に向けて あと2年間（中学3年間）で行うこと

道徳科の本格実施まで、あと2年（中学校3年）です。この間に、道徳の授業に関して先生方にぜひとも頑張っていたいただきたいことを記し、学習資料シリーズの最終とさせていただきます。

1 授業のねらいを達成するための授業スキルを磨いてください

先生方には、毎週ごく当たり前のよう、道徳や特活の授業を子供と一緒に楽しめるようになってほしいと願っています。道徳の授業では、子供たちの生きて働く道徳性を育むために、①ねらいとする価値の理解、②価値に基づいた自己の振り返り、③今後の生活における自己課題の明確化を行います。この学習資料では、伝統的なスタイルの道徳授業、テーマ発問による授業、問題解決型の授業等の様々なスタイルの道徳の授業を例示してきました。具体的なイメージをもっていただきたくて、授業記録もそれぞれ示してきました。

テーマ発問による道徳授業の研究を重ねてみえたH小研究主任のS先生に、その難しさをお聞きする機会がありました。すると、S先生から、

「2年間、毎週テーマ発問の道徳授業を繰り返していくと、最後には授業のテーマを聞いただけで、子供は教師が求める理想的な答えをするようになりました。この傾向を打破することが、次の課題です。」と教えていただきました。この点について、テーマ発問を提唱する永田繁雄氏に直接お聞きする機会があり、「いかに多角的・多面的にテーマに迫るか、そこを工夫する必要

がある」と助言をいただきました。

登場人物の心情を場面ごとに問う形で進められてきた伝統的な授業スタイルの指導がワンパターン化して面白くないという声が聞かれる中で、子供が価値の学習に意欲的に授業に取り組めるようにテーマ発問の授業が提唱されました。そして、今回の改訂学習指導要領では、「問題解決的な学習や体験的な学習等を適切に取り入れる」等、指導方法を工夫するよう示されました。情意面の指導だけではなく、認知面や行動面の指導も行い、実効性を高めるよう求められています。どんなに美味しい食事でも、そればかり食べていれば飽きます。同じように、効果的な指導法でもそればかり繰り返せば何らかの問題は出てきます。

道徳の授業の特質は、道徳的な問題を通して道徳的価値を学ぶことにあります。先生方には、様々な授業スタイルや指導法があることを知り、授業のねらいを達成するために、教材の特徴を生かし、板書の腕を磨き、子供自身が学んでよかったと思える授業を積み重ねられるよう授業スキルを磨いていただきたいと願います。

2 子供の価値観や道徳性を見取る確かな目を磨いてください

授業を通じて培った道徳的な心情や判断力等の芽が日常生活で発揮できているかどうか、日常生活や授業中の発言をもとに子供がどのような価値観を持っているかを判断したり、見取ったりする目や力は、先生に必要なスキルの一つだと考えます。子

供のことですから、教材や話し合いで高い価値観に出会ったり、自分の生活をよりよくするための自己課題を明確にして意欲をかき立ててやったりすれば、必ず行動に移そうと思うはずで。そして、思い切って行動をしたときにすっきりとしたり、他人から認められたりすれば、必ずその行いは強化されます。ましてや大好きな担任の先生から認めてもらうことができれば、効果は絶大なはずで。例えばまくいかなかったとしても、それを見て「頑張ったね」と言ってもらえれば次の挑戦につながります。仮に見落としたとしても、その行為を発表し合い認め合える学級のシステムがあれば必ず善い行いに結びつくはずで。係活動などで善い行いに継続的に取り組ませる中で認め、だんだん習慣化させることで心を育てる方法もあります。道徳科の評価を行う際にも必要な力は、子供の道徳性を見取る先生方の確かな目です。

3 学習指導要領の解説を読み、先生自身の道徳に対する考えを磨いてください

学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」が発刊されてすでに7か月が経ちました。もうお手元にあるでしょうか。学校で印刷すればいいので、まだお手元にない方は、まずは手に入れてください。そして、手元に置き、時間があるときに少しずつ目を通してみてください。小中学校編ともに110ページ程で、改訂の経緯、基本方針から始まって、指導すべき内容項目のとらえ方、指導の配慮事項まですべてが収められています。評価については、文科省「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」の審議結果が本年度中に出される予定で、その結果を加味した再度の改訂が行われると聞きます。学習指導要領解説が全ての考え方やとらえ方の基盤になります。まずは目を通し、道徳に関する自分なりの考えを持ち、自分なりの切り口で授業作りに挑戦してみてください。

演習 次の内容を加工し、授業化してみてください。先生方は何種類の授業を作れますか。内容項目は自由です。私は、3種類作ってみました。

9月のまだ暑い頃のことです。学校南側歩道橋のアスファルト舗装を突き破って草がひょこり顔を出していることに気付きました。交通当番で使うカラーコーンをしまうたびに、その草は日に日に大きくなっていきます。12月も中頃になると草丈が50cmほどになりました。白い薄皮をかぶった花芽が力強くすっと立ち上がっているのですが、まだ何の花かは分かりません。

12月14日のことです。カラーコーンをしまおうとして何気なく見ると、何と花を咲かせていました。スイセンだったのです。嬉しくて、全校児童にその話をしました。大変珍しいことだと、地元の新聞社やテレビ局の人も取材に来ました。テレビを見た人も多くいて、ど根性スイセンとして学区中の注目の的になりました。

ところが、20日（日）の夕方のことです。何者かによって、スイセンの花芽が折られたのを見つけ、あわてて知らせにきてくれた子がいました。2学期の終業式で全校児童に切られたことを伝えると、子供たちから驚きと悲しみ、怒りの声が聞こえました。

そして1月、スイセンを見ると新しい花芽が顔を出しています。2月半ばのことです。スイセンが2度目の花を咲かせました。しかし、このことを子供に伝えていいものか、とても悩んでいます。

